

病態生理学 Pathophysiology

薬：E3-02221MY、生命：E3-02221MS

医療科目 2年／後期 1.5単位 必修科目

科目責任者 蒲生 修治(病態生理学研究室)

■教育目的

病態生理学とは、生体の正常な機能の破綻により生じる症状や、疾患が引き起こされる機序・経過の解明を目指す学問である。解剖・生理に基づいた症状・疾患の成り立ちの理解と、治療戦略を考察するのに必要な専門知識の習得を目的とする。生体を俯瞰的に捉え、生理機能の異常と病態との関連や治療戦略を論理の飛躍無く説明できるようになることが重要である。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①、YD-②、YD-③、YD-⑥、SD-②、SD-③、SD-⑤】

■学習到達目標

1. 主要な疾患の発症原因、発症機序及び経過を説明できる(知識)
2. 主要な疾患の症状や特徴および関連する疾患・症状を説明できる(知識)
3. 主要な疾患への適切な対応や治療戦略を根拠に基づいて提案できる(知識・態度)
4. 推定した疾患を診断するための適切な方法を提案できる(知識)

■準備学習（予習・復習）

予習：受講前に教科書および配信資料に目を通し、疑問点を確認しておくこと(15分)

各回の講義内容に関連する生理学の基本的事項を『シンプル生理学』等を用いて復習しておくこと(20分以上)

復習：講義内容について論理を飛躍させずに説明できるようにすること(30分以上)

■授業形態

ディスカッション・ディベート、双方向型授業（ICT活用）、講義

■授業内容

下の表の項目に関して、教科書及び配信資料を使って解説する。

模擬症例について、その病態や症状の発生メカニズム、有効な治療法などについてSGDを行い、問題の本質を見極めてそれを解決する能力を養う。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	病態生理学総論	病理学総論、臨床検査学総論、病因論、症候学、画像診断学	E2(1)～(6)
2	消化器疾患	食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肝臓の疾患、胆道・膵臓の疾患	E2(4)-②-1～6
3	循環器疾患①	心不全、高血圧症	E2(3)-①-2,4
4	循環器疾患②	不整脈、虚血性心疾患	E2(3)-①-1,3
5	泌尿器疾患	腎不全、ネフローゼ症候群、排尿障害(前立腺肥大症、過活動・低活動膀胱)、糖尿病腎症、尿路感染症	E2(3)-③-2～6
6	呼吸器疾患	換気障害の分類、気管支喘息、COPD、間質性肺炎、その他の呼吸器系疾患	E2(4)-①-1～3
7	中枢神経系疾患①	統合失調症、うつ病・躁病・双極性障害、神経症、心身症、不眠症、認知症、頭痛	E2(1)-③-4～7
8	中枢神経系疾患②	脳血管疾患(アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症、ラクナ梗塞、脳出血、くも膜下出血)、てんかん、パーキンソン病	E2(1)-③-8～11
9	骨・関節・カルシウム代謝疾患	骨粗鬆症、変形関節症、骨軟化症・くる病	E2(2)-③-2～4
10	眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科疾患	近視・遠視・色覚異常、緑内障、白内障、加齢黄斑変性、めまい、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎瘡など	E2(2)-②-3 E2(6)-①-1～3 E2(6)-②-1,2
11	代謝疾患	糖尿病、メタボリックシンドローム、高尿酸血症	E2(5)-①-1～3
12	血液・造血器疾患	貧血、播種性血管内凝固症候群、血友病、血栓性血小板減少性紫斑病、白血病	E2(3)-②-3～5
13	内分泌疾患	甲状腺疾患、副腎皮質機能亢進症・低下症、尿崩症、高プロラクチン血症	E2(5)-②-2～5
14	自己免疫疾患	全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、ベーチェット病、シェーグレン症候群	E2(2)-②-6～8 E2(2)-③-1
15	生殖器疾患	子宮内膜症、子宮筋腫、前立腺肥大症(重複)、不妊、異常妊娠	E2(3)-③-6～8

■ 授業分担者

蒲生 修治 (No.1～10)、望月 靖子 (No.11～15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

成績評価は期末試験の得点に基づいて行う(100%)。

講義時間内に行う理解度確認テスト(ICT 機器を活用)は、自身の理解度をチェックするためのものであり、成績評価には反映させない。

また適宜、目標到達度を確保するための課題を配信するので復習等に活用すること。

■ 教科書

疾病と病態生理 改訂第 4 版(南江堂)

必要に応じてプリント等を配信(配布)する。

■ 参考書

病気がみえるシリーズ(メディックメディア)